



KIN-BALL[®] sport World Cup TOKYO 2017

第9回キンボールスポーツ ワールドカップ東京 2017 大会レポート



■大会期間：2017年10月30日(月)～11月5日(日)

■開催場所：日本・東京都中央区立総合スポーツセンター

■部 門：男子の部、女子の部

■参加国：12カ国(男子11チーム、女子11チーム)※新規参加国：シンガポール、香港

■最終順位および予選結果：

★男子の部

1 カナダ	予選 54 ポイント (予選 1 位) →準決勝 39 ポイント→決勝戦 1 位 優勝!
2 日本	予選 47 ポイント (予選 4 位) →準決勝 39 ポイント→決勝戦 2 位 準優勝
3 チェコ	予選 48 ポイント (予選 3 位) →準決勝 25 ポイント→決勝戦 3 位 3 位
4 フランス	予選 49 ポイント (予選 2 位) →準決勝 24 ポイント→予選上位により 4 位
5 スイス	予選 43 ポイント (予選 5 位) →準決勝 25 ポイント→予選上位により 5 位
6 ベルギー	予選 41 ポイント (予選 6 位) →準決勝 18 ポイント→予選上位により 6 位
7 スペイン	予選 28 ポイント (予選 8 位) →準決勝初戦敗退→7～9 位決定戦 1 位により 7 位
8 中国	予選 35 ポイント (予選 7 位) →準決勝初戦敗退→7～9 位決定戦 2 位により 8 位
9 香港	予選 22 ポイント (予選 9 位) →準決勝初戦敗退→7～9 位決定戦 3 位により 9 位
10 デンマーク	予選 21 ポイント (予選 10 位) →予選敗退→予選順位により 10 位
11 韓国	予選 21 ポイント (予選 11 位) →予選敗退→予選順位により 11 位

★女子の部

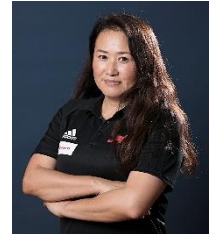
1 カナダ	予選 54 ポイント (予選 1 位) →準決勝 39 ポイント→決勝戦 1 位 優勝!
2 日本	予選 54 ポイント (予選 2 位) →準決勝 39 ポイント→決勝戦 2 位 準優勝
3 フランス	予選 54 ポイント (予選 3 位) →準決勝 25 ポイント→決勝戦 3 位 3 位
4 ベルギー	予選 42 ポイント (予選 4 位) →準決勝 23 ポイント→予選上位により 4 位
5 チェコ	予選 36 ポイント (予選 5 位) →準決勝 22 ポイント→予選上位により 5 位
6 韓国	予選 33 ポイント (予選 6 位) →準決勝 18 ポイント→予選上位により 6 位
7 中国	予選 32 ポイント (予選 7 位) →準決勝初戦敗退→7～9 位決定戦 1 位により 7 位
8 スペイン	予選 27 ポイント (予選 8 位) →準決勝初戦敗退→7～9 位決定戦 2 位により 8 位
9 香港	予選 25 ポイント (予選 9 位) →準決勝初戦敗退→7～9 位決定戦 3 位により 9 位
10 スイス	予選 25 ポイント (予選 10 位) →予選敗退→予選順位により 10 位
11 シンガポール	予選 21 ポイント (予選 11 位) →予選敗退→予選順位により 11 位



参加 12 カ国。ドイツは関連大会ワールドクラブチャンピオンシップのみに参加。

今大会が第9回大会にして待望の日本での首都東京開催となりました。開催国として海外から代表チームや国内外の多くの観戦者を迎え入れることとなり、大会運営はもちろんのこと、大会の盛り上げやおもてなしにおいても「日本」^{NIPPON}として力が入ります。

日本選手団は、黒川道子団長（日本キンボールスポーツ連盟 競技委員会日本代表統括グループ長・日本代表ゼネラルマネージャー：写真）、酒井英登副団長（日本キンボールスポーツ連盟 競技委員会日本代表統括グループメンバー）をはじめ、當山勝由男子ヘッドコーチ、柴井健太女子ヘッドコーチ、高木聡男女アシスタントコーチ、男子選手 12 名、女子選手 12 名の選手団。心は日本スタッフ・応援団全員の「日本」として大会に臨みました。



今大会の参加チームは、カナダ、ベルギー、フランス、スペイン、スイス、チェコ、デンマーク（男子のみ）、韓国、中国、香港、シンガポール（女子のみ）および日本。12 カ国・地域の参加がありました。シンガポール、香港がキンボールスポーツワールドカップ初参加となり、男女とも 11 チームでの戦いでした。参加を予定していたマカオが選手の経済事情により参加できなくなった点は残念でした。

今回のワールドカップに向けての選手強化活動の一環として、2016 年 12 月に大阪で開催したキンボールスポーツアジアカップ 2016 に合わせ、2016 年 4 月に日本代表候補選手、8 月に日本代表選手を選出し、選手は国際大会の経験を積むことができました。アジアカップ後、2017 年 1 月に今ワールドカップの日本代表候補選手を選出し、概ね月 1 回のペースで合宿&強化練習を行い、2017 年 5 月に男女各 12 名のワールドカップ日本代表を選出しました。以降、多い月は 2 回の合宿&強化練習を全国各地で実施し今大会に備えました。



また、今大会の事業の一環として、10 月 30 日（月）に各国代表選手団が分かれて東京都中央区及び荒川区内の小学校を訪問し、国際交流事業を行いました。小学生は、世界のトッププレーヤーとキンボールスポーツを通じたふれあいに歓声をあげて喜んでいました。各小学校が考えたおもてなしとして、書道を披露、体験したり、一緒に給食を食べたり、サイン会を行ったり、各々の形でおもてなしを行いました。事業後に各国代表選手団からもこの貴重な事業に賞賛と感謝の声が溢れていました。

夜にはウェルカムパーティーが宿泊&練習会場である国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催され、パーティー会場には日本キンボールスポーツ連盟名誉会長である馳浩衆議院議員も駆けつけ、選手にエールを送りました。

激励のチョップを受ける石岡選手→



決勝戦でのアトラクション・和太鼓：佃中学校太鼓部

大会本番として、東京都中央区立総合スポーツセンターにおいて 10 月 31 日（火）から 11 月 2 日（木）まで男女予選および準決勝の一部が、あわせて 11 月 4 日（土）に準決勝を実施しました。また 11 月 3 日（金祝）には、第 3 回となるワールドクラブチャンピオンシップ東京大会が開幕し、最終日 11 月 5 日（日）にワールドカップ（男子の部・女子の部）およびワールドクラブチャンピオンシップ（プロの部・アマチュアの部）の計 4 部門の決勝戦が行われました。

試合方式は予選から決勝戦まですべて、前回スペイン大会から採用している1ピリオド 13点の3ピリオド先取制。ワールドカップ方式では先に1つのチームがピリオド 11 点に達した時点で、最下位であるチームがそのピリオドはコートから去り、その後2チームで戦います。

今大会の準決勝はラウンド 9 という予選上位 9 チームで対戦し、ラウンド 6 というラウンド 9 での上位 6 チームが対戦し、ラウンド 9 とラウンド 6 の合計勝ち点で上位 3 チームを決める形が採り入れられました。この形は準決勝が 2 試合あるため、挽回のチャンスがあり真の強者が決勝を逃しにくいという趣旨の元で行われました。問題は準決勝の試合数が多くなり、運営側として時間的に余裕が持ちにくいところでした。

今大会担当レフリーは、カナダから 2 名、フランスから 2 名、アジアから 4 名（韓国から 1 名、日本から 3 名／古賀充レフリー、岡村光洋レフリー、稲垣優レフリー）の計 8 名で担当しました。今大会、韓国から初めてワールドカップレフリーの派遣が行われました。ワールドカップの初期の段階に比べると、レフリーもワールドワイドな形に移行しつつあります。



今大会の日本男子チームは、予選では初戦より 2 勝したものの思いのほか苦戦を強いられました。あわや番狂わせかの土俵際まで追い込まれましたが、最後は実力が上回り勝利することができました。予選 3 試合目で捲土重来を期すカナダとの対戦がありました。しかし、残念ながらストレート負けを喫し、その結果が響き、予選結果として、勝ち点 47 点（予選第 1 試合：18 ポイント＋予選 2 試合：18 ポイント＋予選 3 試合：11 ポイント）の予選 4 位での準決勝（ラウンド 9）に進出となりました。

予選 1 位はカナダ、予選 2 位は前回大会準優勝のフランス、予選 3 位は、前回大会 3 位で自信をつけたチェコという結果となりました。男子の部はデンマークと韓国が予選落ちとなりました。

日本女子チームは、予選 3 戦全勝、1 ピリオドも取られることなく 3 戦完勝し、勝ち点 54 点（予選第 1 試合：18 ポイント＋予選 2 試合：18 ポイント＋予選 3 試合：18 ポイント）でその他の状況もカナダと完全に同じであったため、2 ピリオド 13 点先取制の順位決定戦が行われました。



この順位決定戦では負けはしたものの、初めてカナダと対戦することになり、決勝で再度戦うであろう王者と内容のある戦い方ができ、最終的に予選は 2 位通過となりました。予選 3 位は実力者フランス、女子の部はスイスとシンガポールが予選落ちとなりました。正直なところ、前々回大会の 3 位入賞国であるスイスの予選落ちは意外な結果でした。各国の力が均衡している結果です。

今大会の新たな準決勝方式のひとつ、ラウンド 9 では、日本男子チームは、予選 3 位チェコ、予選 7 位中国との対戦となりました。チェコは実力が上がってきており急成長の侮れないチームです。試合はチェコには勢いがあり 2 ピリオドを取られ接戦となりました。しかし要所を抑え、最後に振り切り、勝利することができました。

日本女子チームは、予選 5 位チェコ、予選 8 位スペインとの対戦です。試合は危なげなく 3 ピリオドを取り、順当に次のラウンド 6 に進出することができました。

準決勝最終ラウンドのラウンド 6 では、日本男子チームは、予選でも苦しめられ日本をよく研究しているスイス、ラウンド 9 でも対戦し、ここでも苦しめられたチェコとの対戦となり苦戦が予想されました。しかしながらチェコには 1 ピリオド取られたものの終始リードする展開で危なげなく実力を発揮し、決勝に駒を進めました。

日本女子チームは、今大会初めて戦うこととなった実力あるフランス、予選及びラウンド 9 でも戦ったチェコとの 3 度目の対戦となりました。ここでは実力を如何なく発揮し、順当にストレート勝ちし、決勝進出を決めました。



特大スクリーンでは展開に応じて反則名も表示

現在、様々な SNS サービスを用いた情報発信の時代となっています。日本においては、初の本格的ライブ動画配信が行われ、臨場感を感じることができる情報発信を行うことができました。また、大会演出として、特大のスクリーンを用いての得点および反則名の表示を行いました。ゲーム進行のわかりやすさが際立っていてキンボールスポーツを初めて見る方に特に大好評でした。

※動画記録はこちらからご覧になれます。

<https://freshlive.tv/KIN-BALLsport/166710>

11月5日(日)、初の日本開催での決勝戦。「日本」への大声援の中、最初に女子決勝戦が行われます。日本女子チームの決勝の相手は、8連覇中の王者カナダ、決勝常連のフランスとの戦いです。今大会、カナダとは予選順位決定戦で対戦し、対策が練られており、フランスとはラウンド 6 での対戦で実力差がはっきりしていました。



手応えを感じていた日本チームは、第 1 ピリオドを日本が取ると、第 2 ピリオドはカナダが取り返す、1 点を争う一進一退の攻防が続きます。第 3 ピリオドは、日本がもぎ取り、先に王手をかける展開に。王者カナダに焦りが見られます。第 4 ピリオドは、先にフランスが落ち、何と 12 点でカナダと並び 1 点を取れば日本の優勝となる大接戦に。しかし、一歩及ばずこのピリオドはカナダが取りました。

第 5 ピリオドは、序盤からカナダ優位で進み、必死で食らいつく展開となりますが、日本チームが 11 点の段階で先に落ち、その後カナダがフランスを下し、カナダの 9 連覇となりました。日本女子チームは、あと 1 点及ばずの悔しい、しかし誇れる銀メダルとなりました。



決勝戦での国家斉唱の様

今大会最後の試合、男子決勝戦。日本男子チームは前回大会に引き続き連覇に挑みます。対戦相手は、王者奪還を目指す宿敵カナダと 2 大会連続で決勝進出を決めたチェコとの戦いとなりました。カナダとは予選で、チェコとはラウンド 9 およびラウンド 6 で対戦して相手チーム事情はよくわかっており、いよいよカナダを倒しての連覇と舞台は整いました。



第1ピリオドは、カナダ優位の展開となり、カナダがそのままピリオドを取ると、第2ピリオドは、徐々に日本チームが巻き返し、このピリオドは日本チームが取ります。第3ピリオドはカナダ優位の展開でも、終盤日本チームも食い下がり、10点で3チームが並びます。しかし、日本チームが11点の段階で先に落ち、このピリオドをカナダが奪い王手をかけます。第4ピリオドは、カナダが序盤からリードし、最終的にカナダのスピード&パワーに屈しました。結果は残念ながら連覇とはなりませんでした。9回連続入賞の準優勝を成し遂げました。

今大会は、「日本」男女とも9回連続入賞で銀メダルという成績でした。ともするとプレッシャーもかかりやすい地元・日本開催でしたが、多くの方々の声援を背に力の限り戦うことができました。優勝したカナダから女子は2ピリオド、男子は1ピリオド奪い、女子も金メダルが手の届くところまで、男女とも日本チームが高いレベルにあることを世界に示したものと感じます。



表彰式では今大会のMVP選手も発表され、女子は、日本チームから岡村亜寿美選手（写真左）が選ばれました。世界のトッププレーヤーとして日本選手が選ばれたことは非常に栄誉であり、日頃の努力の成果だと思います。また、男子のMVP選手は、カナダの Patrice Huneault-Genest 選手が選ばれました。両選手、おめでとうございます！

今大会を含め4大会連続でワールドカップレフリーとして活躍された岡村光洋レフリー（写真右）がワールドカップレフリーとしては今大会で最後とすることが発表されました。今回、見事有終の美を飾られた功績に敬意と感謝の意を表したいと思います。本当にお疲れさまでした。

また、表彰式ではパイオニア賞として1999年に日本へこの競技を導入した吉田正信氏（特定非営利活動法人フレンドリー情報センター代表理事・日本キンボールスポーツ連盟相談役）が表彰されました。吉田氏の導入、普及推進への功績がなければ、日本で、日本から広まった韓国、中国などのアジアへの発展はありませんでした。

他の国の導入者5名もあわせて表彰されました。みなさま、おめでとうございます。

吉田氏（写真左）とプレゼンター／キンボールスポーツ考案者のマリオ・ドゥマース氏→





初の日本開催とあって、大会運営も含めどうなることかと不安な面も多々ありましたが、決勝戦は、全国および海外からも多くの来場があり、会場の観客席は2階席と1階席もともに、満席かつ立見も二重三重にできるほどの超満員で、かつてないほどの大変な盛り上がりを見せました。また、大会期間中に小学校訪問で交流した小学生が学校単位で母校にきた国を応援に来たり、非常に心温まる交流の深まる大会となりました。応援にきてくれた小学生の心の中にも響くものがあったのではないかと思います。キンボールスポーツの魅力が大いに感じたことでしょう。この中からワールドカップ選手が出てくることを期待せずにはいられません。

今回、新たに、ライブ動画配信並びに巨大スクリーン、巨大看板設置等ワールドカップ大会運営資金を捻出するため、従来の寄付金に加えまして、クラウドファンディング（ネット上での支援活動）により全国の皆さまから目標額を超える多くのご支援を賜りました。また、全国各地での多くの壮行会等の開催並びに合宿や大会期間中も数多くの激励をいただきました。皆さまのこれまでのご支援、ご協力によりまして今大会を無事終えることができましたことに深く感謝申し上げます。

2019年、第10回のワールドカップの開催地はフランス・レポンドゥセ(Le Ponts-de-Cé)市にて開催と決まりました。また、2018年にはアジアカップが中国・吉林省延吉市で開催されます。日本代表は次に向け、新たなるスタートを切っていくこととなります。今回の東京開催を機に各メディアにおいて広く取り上げられ、キンボールスポーツ競技がこれまで以上に身近なものになったのは間違いのないと思います。「日本」での今後の普及促進、競技人口の増大に資するものと確信しております。今後とも、キンボールスポーツの発展に向け、ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

文責：酒井英登（日本キンボールスポーツ連盟 競技委員会 日本代表統括グループメンバー）

【結果】

- | | |
|------------------|----------------------------------|
| • 部門：女子 | • 部門：男子 |
| 優勝 カナダ（9大会連続9回目） | 優勝 カナダ（2大会ぶり8回目） |
| 準優勝 日本 | 準優勝 日本 |
| 3位 フランス | 3位 チェコ |
| MVP 岡村亜寿美（日本） | MVP Patrice Huneault-Genest（カナダ） |
| フェアプレー賞 シンガポール | フェアプレー賞 香港 |

【記録】

- 大会公式ホームページはこちらより。英語オンリーです。
<https://www.kin-ball2017.com/>
- 大会公式フェイスブックページです。
<https://m.facebook.com/kinball.sport.WC.tokyo2017/>
- ワールドカップ公式カメラマンによる大会記録写真です。
<http://www.remdesign.eu/kinballwvc2017/index.html>
- 動画はこちらよりどうぞ。
<https://freshlive.tv/KIN-BALLsport/166710>